

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第174回定期演奏会
The 174th Regular Concert

クリティックス・プロジェクト・シリーズⅡ

石田一志

新春・産霊祭

Critics Project Series II ISHIDA Kazushi
"A New Spring", "The Rebirth of Spiritualism"

2004年1月23日[金]
午後7時開演(午後6時30分開場)
津田ホール

：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
：助成：平成15年度文化庁芸術団体重点支援事業
■日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> <http://www.wahoo-net.com/promusica/>
E-mail office@promusica.or.jp





In C (1964年)テリー・ライリー作曲

Terry Riley : In C

[笙] I 真鍋尚之 II 三浦礼美(助演) [胡弓] 多々良香保里

[箏] 桜井智永・山田明美・高橋はるな・早川智子・丸岡映美・田村法子・久本桂子・
渡辺正子・彦坂恵美

[打楽器] 若月宣宏・渡邊理恵

[演奏指導] ユキ・モリモト



Double Duo (1996年)ディエゴ・ルズリアガ作曲

Diego Luzuriaga : Double Duo

[笛] I 西川浩平 II 砂川憲和

[打楽器] I 田村拓男 II 望月太喜之丞



箏四重奏曲「さすらい」 (1998年)シモン・ベルトラン作曲

Simon Bertrand : Le quatuor des errances

[二十絃箏] I 吉村七重 II 熊沢栄利子 III 桜井智永 IV 山田明美

休憩.....



尺八本曲・Once In Arcadia for Shakuhachi (2002年) ユキ・モリモト作曲

[尺八独奏] 三橋貴風



金雀 (1991年)譚盾作曲

Tan Dun : Golden Sparrow

[尺八] I 米澤浩 II 添川浩史 [琵琶] 田原順子

[二十絃箏] 早川智子 [十七絃] 久本桂子

[打楽器] 望月太喜之丞

[指揮] 田村拓男



庭央 (委嘱・初演) ユキ・モリモト作曲

Yuki Morimoto : Theo

[笛] I 竹井誠 II 越智成人 [笙] 真鍋尚之 [箏] 西原祐二

[尺八] I 米澤浩 II 原郷隆 III 阪口夕山 IV 元永拓 V 添川浩史 VI 渡辺淳

[三味線] I 簗田司郎 II 杵家七三 III 山崎千鶴子

[薩摩琵琶] 首藤久美子

[箏] 熊沢栄利子 [十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 望月太喜之丞

[指揮] ユキ・モリモト (客演)

新春・産霊祭 = "A New Spring", "The Rebirth of Spiritualism"

日本の天地創造神話で強調されている概念に「産霊(むすび)」があります。それは一神教のような唯一絶対神による「無」からの創造ではなく、新たな霊は既存の霊同士が「むすんで、つないで、うむ」のだという考え方であり、そこに生成の霊的な力を指摘する姿勢です。

これは前世紀への反省に立った上でわたくしたちがめざしている相互尊重・相互媒介(インターメディアーション)による文化創造という概念に共通するものだと思います。

日本音楽集団が展開してきた重要な活動のひとつは、この「産霊」運動であると常々考えてきました。

つまり、歴史的にはジャンル毎に、流派毎に孤立していた様々な邦楽器同士を結び、伝統と現代とをつないで新しい音楽創造をしてきたことがまずそうでしょう。今回は、集団の「産霊」活動のなかでもわたくしが特別に評価している異文化間の「むすび」に注目してみました。

異なった音楽的・文化的背景をもつ作曲家たちと集団との共同作業の成果を聴いてみて下さい。

一、テリー・ライリー：《In C》(1964)

テリー・ライリー(1935-)はアメリカの作曲家兼キーボード奏者で、ミニマル・ミュージックの先駆者です。ミニマル・ミュージックは民族音楽との接点をもっていることでも知られています。《In C》(1964)は反復性と旋法性の両方から、それまでの現代音楽の様式を覆したかれの代表作です。スコアは53個の断片からなり、パルスとして刻まれるドの音の上で、この断片音型が繰り返され、重なりあいながら進みます。従来のクラシック音楽と異なって作曲者の自我の表現とか、作品に盛られた内容・目的とは無関係の音楽です。演奏すること、聴くことが音楽の発見につながり、同時にその時間、その場所に音楽的な共同体が生まれゆくことが期待されています。

楽器編成が不確定な作品なので、今回は編成に少し工夫をして演奏いたします。

二、ディエゴ・ルズリアガ：《ダブル・デュオ》(1996)

ディエゴ・ルズリアガはエクアドルの作曲家。クウェートの国立音楽院、ニューヨークのコロンビア大学で作曲を学び、ブラジリア大学で作曲を教えています。

これは日本音楽集団の委嘱で1996年に作曲された、エクアドルのアンデスに住むインディオたちの音楽と日本楽器のむすびの音楽です。作曲者によれば、エクアドルの笛と日本の笛には、抽象的でない風土性と温かさを感じさせる音色という共通項があるそうです。

曲は、能管・篠笛と各種打楽器のために書かれていて、続けて演奏される3つの部分から構成されています。能管による「呼びかけ」と篠笛による「うた」に続いて篠笛のスリリングな掛け合いが魅力的なサラサカインディオの早い舞曲による「サラサカ・ダンス」がクライマックスを築きます。

今回の演奏メンバーは今年のエクアドル公演の方々です。

三、シモン・ベルトラン：《さすらい》(1998)

シモン・ベルトラン(1969-)はカナダ出身の作曲家でサキソフーン奏者。モントリオール大学とコンセルヴァトワール・セヴランを卒業後、98年にケベック・カウンシルの派遣で来日したことがあります。《さすらい》は本来は4本のギターのために書かれた作品ですが、作曲者が短期間日本に滞在した際に吉村七重さんに楽譜を献呈。オリジナル編成よりも先に、本日の演奏メンバーによって東京カナダ大使館で世界初演がおこなわれました。プロローグとエピローグを含む連続して演奏される5楽章からなり、瞑想から高揚に至る心情の変化の長い旅路が描かれています。

四、ユキ・モリモト：《尺八本曲・Once In Arcadia for Shakuhachi》(2002)

ユキ・モリモトさんは70年代後半の日本の現代音楽シーンに足跡を残した「EXハウス」の主宰者で、今はクラシック音楽の伝統の都であるウィーンで活動を展開しています。東京芸大(声楽)、桐朋学園ディプロマコース(指揮)、さらに南カリフォルニア大学大学院とウィーン国立音楽大学で指揮を修めましたが、このところは作曲家として活動が活発です。

かれの音楽は名付ければ新叙情派とでもいえるでしょうか。この田園詩風に理想郷を歌った尺八本曲にもそれはいえます。今回演奏の三橋貴風さんは、「希なほど尺八の呼吸をよく理解されている作品」と評されました。声楽と指揮の豊かな経験が、こうしたところにあらわれるのでしょうか。これも一種の「むすび」だと思います。

五、譚盾：《金雀》(1991)

譚盾(1957-)は中国湖南省の生まれ。現在はニューヨークを本拠に世界を闊歩するように活躍しています。文革後に登場したいわゆる「新潮」作曲家を代表する存在で、その作風は歴史と東西の境界を自在に飛翔する音楽的想像力に富んでいることが特徴です。まさしくその文化論的な音楽構想は21世紀の音楽の方向を指し示すものとして国際的に高い評価を受けています。

かれの作品の多くは一種の儀式的な空間を創出します。この《金雀》も楽器・声・静寂を用いて行う、目に見えぬ美を象徴する「金雀」に捧げられる儀式です。日本音楽集団の委嘱作品で、パフォーマンスにも優れた集団の重要なレパートリーのひとつです。

(以上解説 石田一志)

六、ユキ・モリモト：《庭央 THEO》(2004)

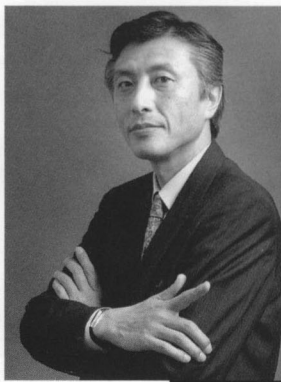
広い庭園の中央に何かが屹立している、というのが、楽想を得た時の映像的なイメージだった。タイトルもこの印象から来ている。

ところで、邦楽器に洋楽的な音使いを要求すると、楽器の特質を殺すことになる、よく言われる。その点については十分に納得もし、承知もしているつもりだが、敢て異を唱えたい。

洋楽器、例えばヴァイオリンの場合、400年に渡って、作曲家達の苛酷な要求に応じてきて現在がある。要は、どれ程の競争原理に邦楽の世界が晒されているかだろう。楽器に、その音がある以上、吹けない 弾けない音楽はないのではないか。

そういうわけで今回、幾つかのパートにはかなり高度な要求をした。そしてそれに、日本音楽集団のメンバーは良く応えてくれた。この演奏家達の努力によって漸く当初のイメージが立ち上がった。感謝。

(ユキ・モリモト)



石田一志 (Kazushi Ishida 1946-)

音楽評論家。武蔵野音楽大学大学院修。現代音楽を中心に研究・評論活動を行う。また、国際交流基金などの派遣で、欧米、インド、中国、韓国、ロシアなどで日本の現代音楽と伝統音楽を紹介している。現在、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン（音楽執筆者協議会）会長、日本ロシア音楽家協会運営委員長、国際現代琵琶楽会理事長、日本アルバン・ベルク協会常務理事。出光賞（学術研究部門担当）選考委員、日本音楽コンクール（作曲部門担当）審査員。くらしき作陽大学客員教授。武蔵野音大、玉川大学講師。



ユキ・モリモト (作曲家、指揮者)

本名、森本恭正 (モリモト ユキマサ) 欧米ではYuki Morimotoの名前で活動中。

1972年～76年 東京芸術大学音楽科、桐朋学園大学音楽学部ディプロマコース指揮科で学ぶ。

83年南カリフォルニア大学大学院 Advanced Study Program 指揮科留学。84年ウィーン国立音楽大学指揮科留学。

1973年～81年NHK等で劇音楽指揮者（連続ドラマ「北の家族」三枝成彰作曲等）、77年現代音楽のコンサート組織「EX-HOUSE」を設立、81年～82年EX-HOUSEコンサート西武百貨店文化事業部との共催化、1978年～80年尚美音楽学校子供音楽科主任講師、87年ウィーンにてEnsemble 9 を結成、作曲家、指揮者として本格的に活動を始める。

現在オーストリア国营放送他、ヨーロッパ各地で、その作品が放送されている。また、多くの作品がオーストリア国立図書館に収蔵され、2004年10月6日、同国立図書館音楽資料室主催で日本人作曲家として初めて個展開催が予定されている。

オーストリア作曲家協会会員。作品数140余。現在5枚のCDがDie Extraplatte社からリリースされている。在ウィーン。

日本音楽集団40周年記念作曲コンクール

Pro Musica Nipponia the 40th anniversary composition competition

日本音楽集団では、創立40周年を記念した作曲コンクールを行うこととし、作曲賞を創設します。募集要項の詳細については、チラシ・HPをご覧ください。

- 応募作品 日本の伝統楽器のための合奏作品。楽器編成は日本音楽集団の楽器から選択し、4人から10人程度までとする。
- 審査員 西村朗・日本音楽集団
- 賞・賞金 第1位 50万円 第2位 20万円
- 応募締切り 2004年8月31日 (当日消印有効)

お知らせ

2004年度

日本音楽集団団員募集オーディション

2004年3月24日(水)

詳細は事務局へお問合せください。

Tel 03-3378-4741

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。 募集の詳細はチラシをご参照ください。

賛助会員 (五十音順)

法人……	個人……	今村厚子	岸 彰則	田原たま	浜田靖子	渡辺京子
(株)全音楽譜出版社	青柳 堯	今村文彦	小泉和子	手塚愛子	古川羽衣山	渡辺ハル子
(株)宮本卯之助商店	新井克輔	大木紀史	後藤陽子	藤山雅弘	本田 実	渡辺治子
NPOトリトン・アーツ・	飯塚絹子	大関富枝	白水昭彦	中島靖子	水野正徳	Andrew
ネットワーク	飯吉正山	太田颯衣	杉田和繁	中島康子	森 玲子	MacGregor
	伊藤美恵子	川 壁 正	関 厚雄	野原清子	森山俊雄	

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp

箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、
楽器の本質を追究した箏

十七絃箏

二十絃箏

二十五絃箏

Tokyo



Kinkodo

時を超え心に残る音づくり

有限会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL03(3792) 8481 FAX03(3792) 8437
E-mail : kinkodo@v004.vaio.ne.jp